

令和6年度 第2回近江八幡市水道事業運営委員会 会議記録

開催日時 令和7年3月10日(月) 13:15～15:00
開催場所 近江八幡市水道事業所 3階AB会議室
出席者 ◎西谷委員長、○根来副委員長、山下委員、北川委員、
小椋委員、坂上委員、中田委員、田中委員、伊関委員
欠席者 なし
事務局 【水道事業所】中西所長
【上下水道施設課】苗村課長
【上下水道総務課】西川課長、(経理・料金G)大野課長補佐
(経営G)友岡課長補佐、北川専門員、藤主事

< 内 容 >

委員長	1. 開会 水道事業所長挨拶 2. 委員長挨拶 埼玉県八潮市の下水道管の破損による道路陥没事故や能登半島地震の被害、PFAS問題など、上下水道の問題が生じている。上下水道管は約50年はもつだろうと思われていたが、破損や漏水などが目立つようになっており、課題が山積している。 運営委員会において、発言せずに提案されたまま通してしまうと、仮に事故が起こった際に、委員会で話をしていたのかと指摘を受ける可能性もあるので、疑問に思うことがあれば、ぜひ発言・質問していただければと思う。
事務局	3. 報告 (1) 水道事業に係る利用者意識調査について 【資料1】に基づき説明。
委員長	補足をさせていただくと、アンケートの返送が50%を超えるというのは、普通の市町では珍しい。市民のキャラクターなのか、水道に関する意識が高いのかはわからないが、これだけの返送数があれば、アンケート結果は信用に値するだろう。 水道料金については、少し誘導的な質問もあるが、気にされている方が多い。地震対策については、多少遅れても構わないという方が多

	いということで、歴史的に近江八幡市はそんなに大きな地震が起こっていないことから、危機意識が高い市町とは異なった結果が出ていると思われる。水道水をそのまま飲む方は年々減少しており、苦勞しているところと思われる。もちろん浄水器を通さなくても十分に飲める水質ではある。塩素臭については特にその年の夏の天候の具合で結果はばらけるかなという感じは否めない。
委員長	4. 議事 議事（１）～（３）の合計３つあるので、１つずつやっていきたいと思う。まずは令和７年度予算（案）概要について、事務局より説明をいただきたい。
事務局	（１）令和７年度予算（案）概要について 【資料２、３】に基づき説明。
委員長	総係費の中に下水道のものを入れてらっしゃると思うが、これについて説明をいただきたい。
事務局	公文書電子化に係る委託料についてだが、水道事業会計で一旦全額を立て替え払いし、下水道事業会計から水道事業会計へ約半額を支払うというイメージ。その分については、「営業収益―その他営業収益」で計上している。
委員長	（琵琶湖）西岸断層帯について、近江八幡市はどの程度アピールされているか。市民のアンケートに反映されてくると思う。
事務局	地域防災計画の中で、震度等災害予測はしている。
委員長	能登半島地震を経て、水道の耐震化が問題になっている。能登半島は地震が発生しない地域として売り出しており、誘致に成功していたが、今回地震が発生した。市の地震予測に関するアピールの仕方や統計の取り方によっては市民の意識もおそらく変わるので、この点も踏まえて市民からの結果を受け止めた方がよいだろう。 場合によっては、市民の危機意識は低いが、役所としては肅々と耐震化を進めるという方針を立てるなど、応用を利かせたほうがよいかもしれない。

	他には工事の影響で企業債が増えたり、民間委託の委託費用が増えたりなど、現在の世相を表したような予算になっている。
事務局	(2) 経営状況について 【資料4】に基づき説明。
委員長	比較対象市町については、基本的には人口規模が同程度など、いくつかの条件を備えて比較対象になっている。ポイントになるのは、累積欠損金がないということで、これまでに赤字が積み重なって大変なことになっているということはないことである。水道管については、耐用年数を超えたものが20%程度あり、工事を進めるのだが、管路の古くなるスピードと比べると厳しいものがある。有収率については、比較対象市町の87%は少し低いようにも思えるが、90%を超えている近江八幡市はロスが多すぎるということは全くない。 総じて、健全で、それなりに問題は抱えているけれどもやれているといった状況かと思う。
事務局	(3) 水道経営ビジョン中間評価について 【資料5】に基づき説明。
委員長	10年のうち5年間やってきた自己評価を○・△で評価した結果を示しており、○が18個、△が14個、―が2個となっている。
副委員長	委員の皆様、水道事業所のホームページを見たことがありますか。
委員	公式LINEに流されたと説明があったが、どのような内容を流されたか。
事務局	直近で配信した内容だが、この冬の凍結防止について配信した。LINEは初めての取組であった。SNSが普及しており、市の公式LINEに登録されている方もいるので、充実・拡大を図りたい。
副委員長	委員の方ですら見られていないという現状なので、どう広報するのか考えないとだめかもしれない。

委員	見たいと思う人が見られる状況にはなっていると思うが、見たいと思うきっかけがあまりない。問題なく生活させてもらっているからこそ、機会がないとも言えるが。
委員長	情報発信には、説明責任を果たすためのホームページでの情報の開示と、相手がこっちに来るのを待つまでもなく、相手に向けて積極的に発信するという２種類があり、今推進しようとしているのは後者だと思う。基本的にホームページは情報開示の責任を果たす場、あるいはＳＮＳのリンク先になってきており、積極的な情報発信にはＳＮＳが推奨される。ただ、高齢者などＳＮＳが届かない方もおり、例えば大津市では水道行政独自のタウン誌を各家庭に配布している。どこまでコストをかけて、どこまでやるのかということはいろいろと問題になってくるかと思う。
副委員長	近江八幡市は濁水や工事があった際の広報はホームページやＬＩＮＥ等で配信されているか。
事務局	ホームページやタウンメールで配信している。範囲の広い濁水に関してはホームページに掲載している。限られた範囲では、直接広報車で巡回したり、各家庭にビラ配りをしたりしている。
副委員長	濁水発生の際は、「このような事故で、この範囲が濁りますよ」といった内容を地図つきで発信するとわかりやすい。 また、県の企業庁等をリンク先に行っている場合、県が掲載終了した際に表示されなくなるので、広報担当が毎日チェックするなど改善された方がよい。
副委員長	文書の電子化ということで、サーバーに対して防災対策をされているか。地震で停電になると呼び出せないなどの影響が懸念される。
事務局	クラウド方式でこの庁舎外の遠く離れた場所で保存はしており、保存先の安全面の確保はしている。自家発電の許容時間を超える長期間の停電が起こった際には、なかなか難しい。
副委員長	過去の地震被害でよく問題になるのが、管路の復旧の際に、図面がすべてクラウド内にあり、呼び出せないということである。管路情報

	や復旧に必要な最低限の情報は、呼び出しやすい独自サーバーで保管するなどの対応をおすすめする。
事務局	水道の管路台帳については、紙媒体で1部持っている。少し古いものに関しては、別棟の危機管理課に情報提供として渡している。
委員長	クラウドについて、データがどこで保存されているか実は知らないということがある。業者によりけりだが、日本で使用しているデータのバックアップが南米にあることもある。被災地域から少し離れば普通の生活をしており、データの取り出しが可能なんてこともあるので、色々なシミュレーションをしながら対策していただければと思う。
委員長	中間評価について、10年のうち5年で○が半分、△が半分でそれなりに進捗しているといった評価になると思う。2019年に立てた計画であり、この時はコロナが流行するなんて全く思いもせずに計画したということで、これからの5年間も何が起こるかはわからないが、計画がないと前には進めないということで、計画を立ててやらざるを得ないかなと思う。
委員長	「適切な水道料金の改定が」というのが所々出てきて、将来的に人口減・コスト増ということで、国からも黒字を維持して、耐震化等の施策をしていないと補助金を認めないというように、厳しくなっている。今の近江八幡市の経営状況からは、何とかやっていけるかなと思っている。今すぐにでも料金値上げをしないとイケないが、選挙が近く、首長の許可が出ないというような市町が多々ある中では、近江八幡市はしっかりと経営できている方であると確認できればよいと思う。
事務局	5. その他 初めに報告した意識調査について、抜粋して5項目を報告したが、全体集計については年度内を目途にホームページで公開をしたいと思う。 次年度の委員会については、水道経営ビジョンの改定もあり、3～4回程度の開催を予定している。取組や検討事項について、ご意見ご審議を賜りたい。よろしくお願いします。

副委員長	6. 閉会 委員の皆様においては、事務局の報告に対して、これはどういう意味かという疑問をもっと発信していただければ、事業体と市民が色々な意見を一緒に考える形になるので、よいかなと思う。 2019年に水道経営ビジョンが作成されて、現在改定の時期に来ている。この間、コロナの流行もあり、大きく危機管理体制が変わってきている。また、22年度くらいから、極端な温暖化により、琵琶湖の状況が変わってきている。冬場に夏のプランクトンが発生し、カビ臭が発生する時期等も変化してきている。さらに、市内の給水栓の水温が高くなり、残留塩素の消費が早くなるなどの影響もある。 これらも踏まえて、どのようなビジョンを作成していくかが非常に大切になるかと思うので、一緒に考えていければと思う。
------	---